

2019年6月 梅雨前線に伴う瀬戸石ダム通砂／排砂運用の実施について

2019年7月11日
電源開発株式会社
西日本支店

1. ダム通砂／排砂運用実施概要

①出水の概要

- ・梅雨前線の影響により、球磨川流域では2019年6月26日より雨が降り始め、期間中の瀬戸石ダム流域における最大雨量は、一勝地地点における時間雨量36.5mm、日雨量176.5mm(7/1)であった。

気象庁雨量データ(9日間総雨量)

観測地点	人吉	山江	五木	多良木	湯前横谷	上	一勝地
総雨量(6/26~7/4)	561mm	522mm	542mm	498mm	662mm	565mm	544mm

- ・その結果、瀬戸石ダムの最大流入量は2,088m³/秒(7/3 21:30)であった。

②通砂／排砂運用概要

- ・2019年6月29日15時30分より瀬戸石ダムの水位を通砂／排砂運用水位に向けて低下開始
- ・その後流入量が増加し、6月30日18時00分に最大流入量1,455m³/秒となる
- ・その後、流入量が減少したが、梅雨前線の影響による降雨が予測されていたことから通砂／排砂運用水位を維持
- ・7月1日6時30分に最大流入量1,665m³/秒となる
- ・その後、流入量が減少したが、梅雨前線の影響による降雨が予想されていたことから通砂／排砂運用水位を維持
- ・7月1日15時30分に最大流入量1,985m³/秒となる
- ・その後、流入量が減少したが、梅雨前線の影響による降雨が予想されていたことから通砂／排砂運用水位を維持
- ・7月3日21時30分に最大流入量2,088m³/秒となる
- ・流入量の減少により7月4日15時に通砂／排砂運用を終了し、瀬戸石ダムの水位を回復

③通砂／排砂実施中の水質、現場巡視結果

- ・通砂／排砂実施中の濁度は、既往の同規模出水時の実績と大きな差はなかった。
- ・通砂／排砂実施中の現場巡視の結果、ダムおよびダム湖の異常等は確認されなかった。

2. 状況写真



瀬戸石ダム通砂／排砂運用中状況(7月3日21時30分、2,085m³/秒 放流状況)